



1 不良債権って何？

その前に、銀行の仕事を簡単に確認しましょう。銀行は多くの人や取引企業から預金を預かります。その預金をまとめて資金とし、代金を一度には支払えないが、例えば、車を購入したい人や最新の管理システムを導入したい企業に、資金を貸し付けます。なぜなら、毎月3万円を貯金するのは誰でも大変です。もし100万円の車を買うならば、34ヶ月待たなければいけません。その間に、彼女を助手席に乗せてドライブする夢が、儚く消えてしまうかもしれません。出来ればいま車が欲しい。企業も同じです。借金は時の利を得ることが目的です。しかし、借金を返せる見込みのない人には、誰も金を貸しません。借金を返済する元は、毎月の給料であったり、企業の将来収益です。金額が大きい場合には、もし借金の返済が出来なくなったら、予め決めておいた土地などを売って弁済します。担保です。さて、90年代に日本では、企業が銀行からの借金返済に苦慮しました。銀行は、企業から元本だけでなく貸出利息さえも取れなくなり、バブル崩壊の折から、担保物件の土地価格が暴落したため、土地を売っても貸出資金の

日本の銀行はもう時代遅れなの？

今野 昌信

半分も回収出来なくなりました。銀行の企業への貸出金が、利息と元本が契約通り返済される正常状態から、大きく劣化しました。銀行の企業に対する債権が不良化したのでした。

2 不良債権は企業だけの責任？

借金が返せない企業が悪い？ 確かにそうですが、企業には企業の事情があります。殆どの企業のトップは従業員にメシを食わせるのに必死です。それでは、なぜ？ と疑問に思うでしょう。その原因は多種多様です。大きく見れば、国際化が進

3 それじゃ、銀行の責任？

土地を担保物件として重視した銀行にも、責任の半分はありますが、銀行の責任だけともいえま

む時代に、発展途上諸国の追い上げにより競争力を失った産業が増えたからです。建設業がそうです。先進国日本を追い上げた発展途上国の競争力とは、第一に賃金・物価の格差です。賃金の安い途上国の人を雇用できる建設サービスは、当然、総工事費用が安く上がります。また、インフラ整備が進んだ日本では、政府が700兆円もの赤字を抱えて、公共投資を抑制しました。高賃金でも技術的に優れた日本企業は、いまだ国内から海外に目を向け、海外で活躍しています。大きな時代の流れは、企業トップの力量を遙かに超えているのです。



MASANOBU KONNO

1991年3月中央大学大学院経済学研究科博士
後期課程単位取得満期退学。
1991年4月函館大学商学部講師。
1997年4月高崎経済大学経済学部助教授。
現在に至る。

不良債権関連記事

「海外投融资を拡大・あおそら銀専門部署や米に拠点」「資産査定厳格化促す金融庁地域金融に監督方針」(『日本経済新聞』2004年7月28日)

「不良債権UFJ、処理拡大・9月中間期、最終赤字も」「大企業ビジネス・脱ケイレツ総合力競う」(『同』7月21日)

「3大銀行体制に・UFJ、三菱東京と統合へ・融資先再建が焦点」(『同』7月14日)

「外貨建て投信10兆円・個人マネー流入」「不動産だけが担保じゃない」(『同』7月7日)

「大手銀の復活は本物か・不良債権利益の範囲で処理・本格回復収益性の低さが足枷」(『同』6月30日)

「資本健全化は柔軟路線・金融審議延べ税規制先送り」(『同』6月23日)

「地銀第二地銀前期不良債権処理損18%減」「脱不動産担保動き出す」(『同』6月16日)

「地方の企業グループ再建・再生機構と回収機構連携」「中小向け融資持ち直し」(『同』6月7日)

「UFJに複数の改善命令」「金融機関の証券仲介業務12月から解禁」(『同』6月2日)

「地域提案で補助金統合」「金融再生プログラムの先に」(『同』5月26日)

「通貨融通強化を協議・日中韓とASEAN」「EU拡大、問われるアジア」(『同』5月15日)

「アジアとの租税条約改定」(『同』5月12日)

「証券化拡大へ環境整備を」「再建計画の監視強化・引当金追加も」(『同』4月28日)

「企業再生支援ブームに」(『同』4月21日)

「債権放棄など関係者の利害調整」「再生支援ファンドSBI運用新会社」(『同』4月14日)

「消費者金融再編幕開け・三菱東京、アコムを傘下に」(『同』3月18日)

「地銀融資回復の兆し」(『同』3月6日)

「三菱東京個人営業の育成機関」(『同』2月28日)

「地域再生に公的金融」「地域金融外部監査の対象拡大」(『同』2月4日)

「金融機関の経営強化計画民間有識者も妥当性審査」(『同』1月28日)

「権限移譲に自治体期待・農地転用許可権」「不良債権処理にジレンマ・地元再生と両立狭い道」(『同』1月21日)

「広がる持たない経営・証券化や社屋売却」(『同』1月14日)

「銀行の繰り延べ税金資産圧縮・税制での支援実現せず」(『同』03年12月20日)

「今年度上期債務者区分上昇、262社」「三井住友銀シンガポールに統轄本部」(『同』12月18日)

「地域金融、再編に的・財源枠2兆円」「新経済圏、FTA軸に」(『同』12月12日)

「県内企業の再生手助け栃木県知事福田昭夫氏」「金融審審本市場活性化策を協議」(『同』12月10日)

「不動産最終処理急ぐ、西川善文三井住友フィナンシャルグループ社長」「資本の質、検討課題にBIS前総支配人A・クロケット氏」「取引先支援ファンド活用」(『同』12月6日)

「不良債権比率の目標地銀の半数5%未満」「地域金融監査基準大手並に」「中堅・中小の支援進める三木繁光三菱東京フィナンシャル・グループ社長」「不良債権比率」「足利銀の一時国有化税金投入の是非論不足」(『同』12月3日)

「今期業績予想大手銀、上方修正へ」「みずほ旧3行本店売却へ・総額3000億円」(『同』11月19日)

「りそな900億円経費削減」(『同』11月15日)

「個人の株式一任運用・日興まず1000万円以上対象」(『同』11月12日)

「企業再生官民で・不良債権買い取り資金融資」(『同』11月5日)

「不良債権米大手銀処理峠越す」「貸出債権を売買・みずほコーポ銀が専門部署」「メインバンクの救済機能が低下」(『同』10月25日)

「不良債権三井住友銀1兆円売却」(『同』10月8日)

「固定資産の減損あいまいな基準戸惑う現場」「三菱東京2700億円黒字」(『同』10月1日)

「永久劣後債1020億円三井住友銀アジアで公募」(『同』7月26日)

「みずほきょう再生会社に債権移管1000社分4兆6000億円」(『同』7月23日)

「不良債権のヤマはみえたか」(『同』7月9日)

「貸出債権証券化商品あおそら銀本体で販売」(『同』7月2日)

「資産担保証券700億円再証券化」「大手銀含み損解消・保有株圧縮は続く見通し」(『同』6月18日)

「りそな貸出資産を再評価・不良債権処理加速夏にも行動計画」(『同』6月11日)

「劣化する自己資本質を見る目厳しく」(『同』5月28日)

「不良債権りそな2-3年で処理」「危機管理基準あいまい」(『同』5月21日)

「りそな公的資金申請へ」(『同』5月17日)

「銀行自己資本かさ上げ厳しく監視」(『同』5月7日)

「BIS新規制案引き当て促進型に」(『同』4月30日)

「欠損金繰越期間を延長・不良債権処理控除7年軸に」(『同』4月23日)

「国有化かざし銀行改革・金融庁普通株転換の指針公表へ」「大手銀株下げ進む・優先株巡り思惑売りも」(『同』4月4日)

せん。自動車産業、精密機械など高度な技術力を誇る日本の製造業が、80年代、90年代に安定した経済を維持しました。海外でも活躍するこの産業分野の企業は、銀行からの借入を減らし、海外で社債を発行して資金を調達しています。銀行離れです。自ずと銀行は、建設業、不動産業、地域の中小企業などを相手に、不動産を担保に資金を貸し付けました。そこに、地価の急激な下落がおこりました。それに加えて、長く国の規制下におかれた金融業は、資金取引の便利さで、欧米先進諸国だけでなく、シンガポールや香港などにも大きく水をあけられました。日本は金融商品の設計から銀行支店の配置まで、ずっと大蔵省が指導してきました。金融業自体、自由化・国際化が遅れま

4 銀行はもう時代遅れなの？

不良債権はいま償却処理が急がれています。しかし、銀行が企業に貸し出す限り、不良債権はゼロにはなりません。国際競争力に劣る企業が、求められる水準をクリアーできるとは限らないからです。もう世界に追いつけない、日本の銀行は時代遅れだ、と諦めてはいけません。預金を集めて貸し出すだけが、銀行の仕事ではありません。

社会には多くの人と企業が存在します。銀行に求める取引も多種多様です。一つ一つの要求に応えるオーダーメイド金融は、いままでの銀行の機能を細分化して、はじめて実現できます。不良債権を少なくするには、銀行の取引相手のパフォーマンスを管理するだけでなく、銀行自身のバランスシートを健全に保つため、広く取引リスクを分散し、収益が上がる企業との取引を創ることが必要です。国際化の時代には、今まで以上に金融取引の知識と技術が、金融のプロとして求められます。何より、顧客の開拓が大事です。その企業は日本にも、海外にも存在するのです。結論は、銀行、企業、そして私たちも広く世界に目を向け、共に成長する関係を築こうということです。